

令和3年度 宮城県伊具高等学校 志教育実践報告書

【農学系列】

〔テーマ〕 フラワーバトンプロジェクト

・志教育にかかるねらい<かかわる・もとめる・はたす>

〔活動のねらい〕

平成30年度より、丸森町教育委員会・丸森町内小学校・丸森中学校と伊具高等学校の共同で、「つながろう丸森 高めようまちへの思い」というテーマで志教育に取り組んでいる。

花の栽培をとおして人とかかわりを持ち、より良い生き方を求め、関わりの中で社会の役割を果たすことができるように、小・中・高で連携している。

〔活動内容〕

パンジー・ビオラの花を伊具高等学校農学系列で栽培をし、各小中学校の児童生徒に伊具高等学校の生徒がプランターへの花の植え方を指導した。今年度はコロナで植栽活動が中止になることも考えて、生徒たちが植栽のやり方を行えるように動画を制作した。

植栽されたプランターを各小中学校の児童生徒が各地区の商店へフラワーバトンとして配布している。

〔成果と課題〕

丸森町内の小学校と丸森中学校にプランターへの植栽指導を行った。コロナの影響もありソーシャルディスタンスを遵守しながら活動を行った。コロナで中止も考えられたので生徒同士が話し合い、小学生向けに植栽のやり方を教える動画を制作した。生徒自ら試行錯誤しながら動画を編集することができた。コロナの影響が少ない時期であったので、動画を使うことはなかったが、新たな発想で取り組むことができ、生徒の成長を感じることができた。高校生が先生役で小中学生に草花の植栽技術を教えた。高校生は教えるために植栽のやり方を完璧に習得しなければならず、小中学生のために必死に座学や授業に取り組む姿勢が見られた。小中学校での植栽活動では和やかか雰囲気で行うことができた。最初は緊張気味に植栽を行っていたが、高校生が積極的に話かけると緊張が徐々になくなっていき打ち解けていった。今回、伊具高生の小学校の母校で最後の植栽活動を行う機会があった。その生徒は進路に悩んでいたが、この植栽活動を通じて自分が育った環境の良さを知ることによって自分を見つめ直し地元就職の道を選ぶことができた。この成果から生徒たちは小中学生に対して「教育」ではなく「共育」で共に成長できる絶好の機会であった。来年度から丸森町の小学校は2校になり活動の存続の危機であるが、別の形でこの活動を継続していきたいと考えられる。

【福祉系列】

〔テーマ〕 丸森町防災プロジェクト

～備えよう！つなげよう！愛言葉は“私たちにできること”～

・志教育にかかるねらい<かかわる・もとめる・はたす>

〔活動のねらい〕

高校生が地域の一員としてできることを考え、昨年度の学校家庭クラブの活動を発展させながら、災害時に高校生がかかわることができる取り組みを考え、実践方法を探る。

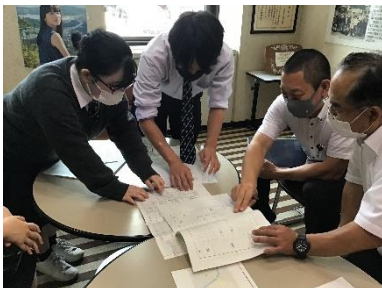
〔活動内容〕

昨年は、東日本台風の際に実際に避難所生活を体験したことから、「ホッと一息」語り合いが出来るように連結できるクッションを製作した。今年は、新型コロナウイルスなどの感染症に配慮した「避難所の設営」を計画した。丸森町の防災マネージャーより助言を受け、町の防災訓練に避難所のレイアウトを考えてボランティアとして参加した。当日は、避難者用のテントや段ボールベッドを実際に組み立てて避難者の生活や不安を体験し、高校生が寄り添うために出来ることは何かを考えた。また、丸森町の課題として、高齢者の人口比率が宮城県で2番目に高く、防災活動の担い手不足がある。大きな災害が発生した場合に避難所が機能を果たせるようになるまでは3日間必要とされており、どのような行動が期待されているのか、どのようなことが出来るのかを考えた。さらに、日頃から防災意識を高めるために避難時に大切な言葉を「キャッチコピー」として考え、普及活動を計画している。

全国各地で毎年のように発生している自然災害に備え、自然災害による犠牲者が「^{ゼロ}0」を目指して、今後も町の防災活動に積極的に参加していく。

〔成果と課題〕

丸森町で作成されている浸水を想定したハザードマップと、令和元年度の台風で浸水した地域を比較検討した結果、ハザードマップを参考にしながら、過去の災害を忘れない大切さを学んだ。令和元年度の東日本台風の被害を忘れずに、地域の防災や減災を積極的に呼びかけられる生徒を今後も育成していきたい。



い・ま・こ・そ

「い」…移動は早めに

「ま」…丸森町のみんなで

「こ」…声がけしよう

「そ」…備えよう



【機械系列】

〔テーマ〕「地域社会のためにできること」

・志教育にかかるねらい<かかわる・もとめる・はたす>

〔活動のねらい〕

高校生が地域社会のために何ができるか考え実践する。地域社会の課題を見だし、課題解決を通して社会性や勤労観を育成する。

〔活動内容〕

「高校生が地域社会のために何ができるか」を考え、各年次において既習内容を踏まえながら、地域社会の抱える課題や、ニーズを掘り出し、他者と協働して課題の解決策を見いだしていく「伊具高のカプロジェクト」を機械系列では実施している。

本年度は、1年次は、板金の実習で高度熟練技能者の指導のもと、ちりとりを製作し、地域に寄贈した。2年次は地域の活性化にむけた取り組みについてプレゼンを行った。3年次は、地域企業の方と子どもむけの消毒液スタンドの製作と、小学校でのプログラミングの授業と中学校の技術の授業に対応したドローンを用いたプログラミング授業を実施した。

〔成果と課題〕

地域社会の求めるニーズや課題に他者と協働で取り組む活動を通して「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を身につけさせることができた。また、学校での学びを地域社会に還元することで、誰かの役に立ち、人に感謝されることの喜びを感じることができた。またテレビや新聞等で活動の様子を紹介していただき生徒たちは達成感を味わうことができた。

今後も生徒が主体的に地域社会と関わることにより自己の役割を認識し、よりよい進路選択に繋がるようにしていきたい。また、社会の変化にも対応できる人材の育成を目指していきたい。



【情報系列】

〔テーマ〕 丸森町 地産地消お弁当プロジェクト

・志教育にかかるねらい< **かかわる**・**もとめる**・**はたす** >

〔活動のねらい〕

地域の企業と連携して“地産地消のお弁当”を企画・販売し、3年間の商業の学びの集大成とする。

〔活動内容〕

情報系列3年次生が、総合的な学習の時間（週2単位）で丸森の地元企業「川のほとりのコーヒースタンド CawaCaffe'」・「大槻ファーム」・「昭ちゃん農園」・「飯渕豆腐店」・「フレスコキクチ丸森店」・「本校農学系列」と連携して、“地産地消お弁当”の企画・販売を行った。

〔成果と課題〕

商品開発にあたり、丸森町の歴史や食材について調べ、見た目からも丸森町らしさが伝わる地産地消お弁当開発を目指した。地元企業へプロジェクトの協力を依頼する際は生徒が交渉をし、ビジネスマナーや電話対応など学んできたことを実践した。マーケティングの知識を知り、販売促進活動では今まで学習してきた広告の知識を生かしてポスターやPOPの作成も行った。販売当日はビジネスマナーで得た知識を実践として身だしなみや挨拶等を意識しながら活動することができた。なお、地元丸森のスーパーで販売を行うことで地域へ情報系列の活動を知っていただく良い機会となった。販売活動後は売上と仕入原価を比較し、利益の算出を行った。これらの活動を通して3年間情報系列で学習した商業科目の内容を多いに活用することができただけでなく、地域の企業と連携することで、より深く商業科目の実践的な学びにつなげることができた。

今年度も外部講師を活用してより深い学びを得ることができたが、今後も継続していくために年間計画をあらかじめ立て、しっかりと予算を配分していただく必要がある。なお、令和元年の台風被害や新型コロナウイルスなど、丸森町の現状から、地域生産・地域消費（地産地消）によって丸森町の活性化に貢献すべく試みたプロジェクトであったが、次年度以降は、町外へ丸森町を発信できるようなプロジェクトを行いたい。そして、一人でも多くの生徒に起業家精神やビジネスの楽しさを感じてもらおう場の提供をしていきたい。

